

質問 森（益）議員（自民 中津川市）令和8年7月2日（木）

1 第13回全国和牛能力共進会に取り組む意義と意気込みについて

答弁 知事

全国和牛能力共進会に取り組む意義でございますけれども、これは何と言いましても生産者の技術力や飛騨牛ブランドの更なる向上による本県畜産業の活性化にあります。

議員ご指摘のように、これまで、平成14年の岐阜大会と平成19年の鳥取大会で、連続して日本一である「最優秀枝肉賞」を受賞したことにより、「飛騨牛」の名が全国に認知され、現在も枝肉価格は全国平均と比べて2割ほど高値で推移しているところでございます。また、「飛騨牛」は、観光面においても本県のリーディングブランドとして地域経済に多大な波及効果をもたらしてまいりました。

しかしながら、他県においても牛の改良が進んだことにより、肉質面で差が無くなってきております。その結果、近年、残念ながら日本一の座から遠ざかっているところでございます。

このため、平成30年2月に県と関係機関で構成いたします戦略会議、これを設立し、「和牛日本一奪還戦略」として3つの対策に取り組むことといたしました。具体的には、1点目に、ゲノム育種価を活用した優秀な母牛を選抜すること、2点目に、選抜された母牛の受精卵移植による優秀な子牛を増産すること、3点目として、増産した子牛を肥育した後、エコー診断技術を活用して出品牛を選抜することでより良い牛づくりに努めてまいりました。

この結果、前回の鹿児島大会では、第3位となる優秀枝肉賞を受賞し、飛騨牛の魅力が改めて全国に発信できました。一方、これも議員ご指摘がありましたけれども、「肉量不足」や「長距離輸送に伴います牛の消耗」といった新たな課題も浮き彫りになりました。

そのため、今回の北海道大会に向けましては、まずは、肉量不足対策として、子牛の時期にタンパク質の多い飼料を与えるという実証試験に取り組み、肉量の増加が確認できましたことから、この方法を盛り込んだ子牛育成マニュアルに改定をいたしまして、現場での普及を行ってまいりました。

次に、長距離輸送対策といたしまして、牛の体調不良や体重の減少につながる振動や温度、湿度といったストレスを軽減できる輸送方法を検討した結果、海上ルート、海を使うルート、が最適であるとの考えに至っております。

今後は、10月に北海道大会の会場まで実際に牛を輸送して、現地だと畜して枝肉の状態など最終確認を行うとともに、定期的に血液検査や体重測定、体型確認を行い、

発育状況を注視しながら、来年7月に最終選抜を行う予定としているところでございます。

北海道大会まで、残すところあと1年余りとなりました。畜産を取り巻く情勢は依然厳しい状況が続いておりますが、これまで培ってまいりました知見や技術、情熱の全てを結集し、関係者一丸となって北海道の地で再び日本一の栄冠を取り戻し、さらには、令和14年の岐阜県大会にもこれらの取組が成果につながるよう全力を尽くしてまいります。

担 当 課 畜産振興課

電話番号 058-272-8449

メー ル c11437@pref.gifu.lg.jp